

# 宗務所通信

東京 改修  
申請 受付

れ「こころ・さわり」の過ごした。  
「東日本大震災から5年が経過。支援が必要なのは当然のこと、今は更に現地の人との交流をはかる事が大切だと感じる」と木内副長は言う。

以上の事は、今後私たちが被災された方達とどのように向き合っていけばよいのか、何を必要としているのか、という事の足がかりとなるだろう。自然と合掌をされた全体写真に、こちらも思わず合掌をしてしまう。

## 石巻市「こころ・さわり」を訪問

平成28年12月1日・2日  
日の2日間 こぞうくん

(日蓮宗新聞キャラクター)

と静岡県東部宗務

所 木内桓道副長が宮城

県石巻市恵み野2丁目11番1

地域活動支援セン

ター「こころ・さわり」

を訪問した。

「こころ・さわり」の商品は、平成28年11月27日伊豆長岡アクリシスからで行われた護法大会で参加者への記念品として配られた。この商品は、ひとつひとつ手織りされた物で作者の思いが込められている。

商品作成のお礼と事務手続きの為訪れた2人。当時は、長旅の疲れも忘れるほどの笑顔で迎えられました。ミスや失敗、制約がなく、常識や既成概念があらわれる。自分の感覚に形を変えることができる「自分の織り」を創りだしました。「さわり」の名前の由来は「差を織る」という。さわりは個性というそれが持つ「差」が織り始めて手織りで感性を広めた個性を尊重した新しい手織りだ。57歳から始めた手織りで感性を織りに形を変えることが出来る「自分の織り」をさわりは城みさをさん



**「こころ・さわり」**

身体障害者や知的障害者など社会的に弱い立場の人々が「自分らしく」「人間らしく」「楽しく」生き、働く場としての「さわり織り」を中心として「小規模作業所こころ・さわり」を立ち上げ、その製作活動を通して社会に寄与する事を目的としている。

「さわり織り」とは、それぞれが持つ個性・感性を自由に、思いのままに織る事ができ、制約がない織りを織ることが出来ることで障害を持つ人々にも向いており、感性豊かな作品が全国で生まれる事で、障害を持つ人々に感謝申し上げます。

## 宗務所より

来年の檀信徒研修道場は、静岡県東部宗務所が担当です。是非檀信徒の皆様にお勧め下さいます。

## 「差を織る」

さわりとは、さわりは城みさをさん

から離れ、自由な発想と視点を大切にしている。この事で一人ひとりの生まねながらの感性を引き出すことでオーナリー作品を創ることが出来るという。

現在は、この「さわり」の考えが広く受け入れられ、「さわり」の輪は世界40カ国にまで広まっています。



本年は大変お世話になりました。感謝申し上げます。

寺門興隆・法体健全をお祈り申し上げ年末の挨拶とさせて頂きます。

宗務所長 安藝栄修